

令和元年度 田辺市自発的活動支援事業

共催 NPO 法人和歌山県自閉症協会

和歌山県発達障害者支援センター ポラリス

「大人の発達障害」

～大学生から初老期までの発達障害の人が教えてくれたこと～

講師 よこはま発達クリニック 院長

よこはま発達相談室

大正大学心理社会学部臨床心理学科 教授

福島大学こどものメンタルヘルス支援事業推進室 客員教授

内山 登紀夫 先生



令和2年1月5日(日)、和歌山県立情報交流センターBig・Uにて講演会を開催しました。講師には、児童精神科医であり大学教授の内山登紀夫先生をお招きし、「大人の発達障害～大学生から初老期までの発達障害の人が教えてくれたこと～」をテーマにご講演いただきました。

第1部講演は以下のとおりです。

成人期になって初めて発達障害と診断される人には、自閉症スペクトラム(ASD:Autistic/Autism Spectrum Disorder)が多いように思われます。スペクトラムとは連続体のことですが、知的な遅れの有無に関わらず、自閉症やアスペルガー症候群などを一くりにして自閉症スペクトラムといいます。自閉症スペクトラムには、障害の程度が軽度の人から重度の人、知的障害が軽い人も重い人もいます。診断は1～2歳でつきますし、大人あるいは高齢になってからでもつくことはあります。診断基準は、社会性の障害、社会的コミュニケーションの障害、社会的イマジネーションの障害の3つの障害が小さいころから見られることで、この3つの障害は、世界で初めて自閉症スペクトラムという言葉を提唱したローナ・ウィング先生の名前から「ウィングの3つ組み」と呼ばれています。

DSM-5 というアメリカ精神医学会の診断基準では自閉スペクトラム症と言い、自閉症スペクトラムと基本は同じですが、その特徴には、コミュニケーションと対人交流の問題を併せて「対人的相互交流」、イマジネーションの問題である「反復行動」などがあります。

自閉症スペクトラムは発達障害のひとつですが、発達障害の大きな特徴としては発達早期に症状が見られることです。大人になってから社会性、例えば対人交流が苦手になったといった場合には発達障害とは言いません。しかし発達障害の特性が通常明らかになる児童期を気づかれずに乗り越え、大学生になり、社会人になり、結婚、出産、会社での昇進な

どを経てから初めて診断される人が昨今は増えています。これは、本人の能力や置かれている環境によって、こだわりや対人交流の苦手が目立たずにやって来られたけれども、周囲からの社会的要求が能力の限界を超えたときにそれら特性が明らかになりがちであるということだと思います。

自閉症スペクトラムは認知障害なので、認知の特性は必ずあることが前提です。視覚による理解が聴覚による理解よりも得意な人が多いことや、計画して実行する能力の弱さ(実行機能障害)や相手の気持ちを読む能力の弱さは自閉症スペクトラム特有の特性といえます。また、状況を考慮して判断する能力の弱さや注意の障害は自閉症スペクトラムの特性でもありADHD(注意欠如・多動症)の特性でもあります。

発達障害のある成人がどれくらいいるかはなかなか調べるのが難しく、世界的にもデータは少ないのですが、イギリスで行われたある調査によると、自閉症スペクトラムは100人に約1人いて、ADHDは100人に約2.5人いるというデータがあります。もし日本で同様の調査を行えば、これと同じか若干多い数になるのではと思われます。

また、僕のクリニックにおいても、発達障害のある成人を対象に支援ニーズについてのアンケート調査を行いました(対象者71人、年齢18歳以上)。支援に関してどういう情報がほしいかとの問いに、最も多かった回答は自立に関する情報でした。20代が対象者の約40%を占めており、自立がまだ上手くいっていないことの表れでしょう。親は高齢化してきますし、お金を始めとする将来の生活に関する心配はよく聞かれます。次に多いのは就労の問題です。ワード・エクセルや電話対応などの職業スキルはあるのですが、何よりも職場の人間関係に困っているという人が多かったです。この他、メンタル面や身体面の医療についての困りごともありますし、女性の場合は、妊娠しても妊婦検診になかなか行かなかったり、子どもが思春期に入ってから反抗期に上手く対処できなかったりすることもあります。それから自立・家庭生活の支援ニーズはとても高いと言えます。掃除や片付けが苦手、ついつい支払いを忘れてしまって家賃や光熱費を滞納するなどの実行機能の問題がありますし、音や臭い、あるいは触覚などの感覚に関する問題もあります。ゴミ出しなどの日常生活支援はニーズが高い割に使える公的サービスはあまりなく、自閉症スペクトラムの人のなかには高齢の親などに依存しているケースも見られます。因みに、横浜市には障害のある人を対象にした自立生活アシスタントという制度がありまして、これを利用して多くの人が地域生活を継続しています。こういう制度が全国にあれば良いと思っています。

第2部講演は以下の通りです。

まずは、大人の自閉症スペクトラムのイメージを持ってもらうためにDVDを見ていただきます。自閉症スペクトラムの若い女性です。この方は幼児期から療育に通い、お母さんは、本人にできないことがあればより簡単なやり方を教える、できることから始めるなど、要求水準を本人に合わせて変えて来ました。自閉症の子どもは切り替えが苦手な場合が多いため、本人にできることや興味・関心のあることを中心にスケジュールを作って予定を事前に知らせるようにしました。大人になって就職した現在は、自身の特性をうまく活かして日々の業務に取り組んでいることによる充実感や達成感があり、不安感はありません。本人の興味・関心のある課題に変える、課題と環境はその時々の子どもの状況によって変える、そういう周囲の姿勢、そして本人が「今、出来ている」ことから得られる達成感や充実感をサポートすることはとても大切に思います。

自閉症スペクトラムの精神科的合併症、いわゆる二次障害には不安障害が多いですし、気分障害や双極性障害、ADHD、統合失調症などのほか、自殺の危険性が高くなるとも言われています。物を捨てられない溜め込み症、いつも皮膚を引っかいている皮膚ひっかき症、そして自閉症スペクトラムの人たちはトラウマ体験も多いためPTSDがある場合があります。合併症のひとつであるアレキシサイミア(失感情症)とは、その人にとっての生気が感じられない、生きている実感

がない状態のことで、今の自分の感情が分からないと葛藤する人や、お腹が痛い、頭が痛いと体調不良を訴える人が多く、心身症との関係が深くなります。

次に、大学についてですが、僕たちは今、イギリスの大学と組んで、発達障害のある大学生のメンタルヘルスに焦点を当てたサポートを実践しようとしています。これまでの REAL サービスを行っているグループの研究ではイギリスの 20 の大学に通う発達障害と診断された 291 人の大学生にインタビューを行ったところ、自閉症スペクトラムと診断されたことで、他の生徒と全く同じように参加できる活動は少ないということが分かり、また、ソーシャルスキルの不足は自分個人の責任ではないということが分かって良かったと感じている学生が多かったです。「REAL」は、Reliable(頼れる)、Empathic(共感)、Anticipate(予告)、Logical(論理的)を意味します。Reliable(頼れる)とは、急な休講や曖昧な課題を減らして可能な限り時間割やシラバス通りに実施し、相談先は多くの窓口を設けるのではなく担当者を一人に絞ること、また、大学生だからといってお金の管理や目的地への移動が当然出来ると仮定しないことなどを指します。Empathic(共感)は、個々の感じ方・見方に共感して、例えば「友達は多ければ多いほどいい」などのステレオタイプな判断をしないということです。Anticipate(予告)は、予想外の変更をなるべく避け、変更せざるを得ない場合はなるべく事前に知らせます。Logical(論理的)は、感情的にならずに交流し、混乱や不安の原因となる曖昧さや不明確さを避け、他者の考えを推測することが苦手なために講義の理解が困難になりがちであることを踏まえて、講義は何よりもまずは具体的に行われることが望ましいと言えます。

そして、会社員、主婦、引きこもりなどの社会人について、大人になると、まず大事なことは自己理解が出来ているか、自分には発達課題があり、コミュニケーションが苦手である等々、診断名や特性を客観的に理解できているかどうかということです。一人で何もかも解決することは難しいので、例えば、夜眠れない、お腹が痛い、対人交流や仕事上のトラブルなどの困りごとがあるときには誰かに支援を求めましょう。親、きょうだい、専門職など支援してくれる人の存在や、震災などの緊急時には、誰かにヘルプを求めて具体的な対策を教えてもらえることが大切です。自閉症スペクトラムは生まれつきの障害ですから、その人なりに発達はしても苦手なことは生涯継続して急に変わることはありません。最近は、ソーシャルスキルトレーニングなどの対策を行いながら特性を隠して日常生活を送っている人たちが増えているのですが、大学や職場では特性を隠して社会適応している分、より大きなストレスを抱えかねません。大人になってからの人生は長いですから、何十年もカムフラージュして過ごすことはとても大変です。無理をしてカムフラージュしなくてもいいように支援をしたいですし、特性を隠さなくてもいいような社会を目指したいと思っています。

女性で自閉症スペクトラムに ADHD を合併している人の場合、負担はより大きく、また社会的な要求水準は男性よりも高くなりがちです。女性には、仕事、家事育児、女子会、PTA の付き合いなどやることがたくさんあるため、なかには心身を病む人もいます。家事・育児の負担が虐待リスクにつながるケースもあり、虐待防止の意味においてもお母さんへの支援はとても大事です。そしてお母さんへの支援において忘れてはならないのは、批判をしないということです。疲弊しがちなお母さんへの負担を軽減するためには、保育園や児童発達支援センターなどを積極的に利用して良いと思います。また、お母さんにも子どもにも発達障害がある場合、親子はセットで考えます。医療機関や薬物療法だけでは解決しませんが、保育園や学校、療育機関とも連携してサポートしましょう。

中年期以降になると、当然ですが親も高齢化し、いわゆる8050問題が起こります。若いころよりも孤立化しがちで、災害や病気の時などの不安の訴えや、収入が不安定なため、きょうだいや公的支援などに経済的に依存するケースが増えます。

最後に支援の話をしてします。自閉症スペクトラムの認知の特性が急に変わることはないため、基本的な支援方略は、本人が混乱せず、嫌な刺激の少ない環境をセッティングすることです。

イギリスの自閉症協会の考え方である「SPELL」というアプローチがあります。そこでの大切な考え方は、まずは「構造」です。そして、苦手なことよりもできることに焦点を当てて活かしていく「肯定的な予測とアプローチ」、例えば本人が相談に来た時には具体的な対策を一緒に考えましょうという姿勢の「共感」、感情的に怒ったり、逆にベタベタしたりすることなくなるべく「穏やか」に接すること、そして社会的つながりを意味する「リンクス」があります。自閉症スペクトラムへの支援策をまとめると、視覚支援や環境設定による構造化、カウンセリングや薬物療法による併存障害への対応、そして関係機関との連携などが挙げられます。

それから適応するという事は、仕事、収入、IQ、自閉症特性が強いや弱い、生活の自立度などは実はあまり関係がありません。仕事はそれ程していないけれど自分はハッピーですという人もいれば、仕事はしているけれど、しょっちゅう職場や家庭でのトラブルがあつて自分はアンハッピーですという人もいます。自閉症スペクトラムの人にとって、適応するという事のハードルは高いかもしれません。けれども、仕事や収入などに関係なく、自分らしく生きることが出来ていれば、自分はハッピーですと言える、つまりはその人がハッピーかどうかは周りが決めることでなく、本人の価値観によるものであると思います。

発達障害にはいわゆる医学的な治療は存在しませんが、支援者が出来ることはとてもたくさんあります。そして、その家族が社会のなかで孤立しないように、本人と家族のどちらにも適切な支援は必要です。友達を作ろうとか、出来るだけ早く仕事をしようとか、不適切な対応をすれば複雑化しがちなので、なるべく本人の出来ることを考えて支援していくことが肝要に思います。

〔質疑応答〕

■ イマジネーションの障害と反復行動はどう繋がるのでしょうか。

イマジネーションとは、“こうでなくこうやればこう変わる”が頭に浮かぶことです。イマジネーションの障害があると、こうでなければ出来ないかもしれない、こうするととんでもなく怖い目に遭うかもしれないなどネガティブな発想が浮かんで来て、色々な可能性については考えたくない、いつもと同じ通りにやりたいと、つまりはいつも同じことをやるのが一番安全だということになります。故にイマジネーションの障害は、同じことを繰り返す、反復することに繋がるのです。

■ 診断は本人または家族の相談がないと難しいですか。

現在の状態だけを診て発達障害かどうかを必ずしも判別できるケースばかりではなく、生育歴など含めて、本人と家族の協力があつて初めて確定診断が可能になることも多いです。

診断を受けていることを職場に隠している、あるいは本人が診断を受けたいと言ってきかなくて周りが困っているようなときには、ユニバーサルデザインの考え方が活用できます。ユニバーサルデザインというのは、障害のある人もない人も同じように利用出来て、双方にプラスになる支援の考え方です。この考え方は本人が障害を明らかにしていない場合に有効です。もうひとつは、合理的配慮の考え方です。本人が障害を明らかにして、こういう支援をしてほしいといったときに、会

社や学校は可能な範囲でサポートをしなければなりません。日本では、国公立大学を含めた公的機関は義務で、民間は努力義務です。大学での合理的配慮には、例えば、必要と認められた場合はレポートの提出期限を1週間延ばすなどが考えられます。ただし、それ以上伸びたら単位をあげられないことを、担当教員として僕ははっきりと学生に言います。合理的配慮というのは、本人の言うとおりに何でもしてあげることではなくて、原理原則に従ってやっていくということです。発達障害だから何でも OK ということではありません。

■いつも不安で自信がもてません。高すぎる目標を設定しがちな場合はどうしたら良いでしょうか。また、「友達をたくさん作ろう」と学校で言われてきているため、「友達はたくさん作らなくていいよ」はと言えば本人に伝わりますか。

本人の設定する目標、例えば、友達を作ることのメリットとデメリットを本人と一緒に書き出します。そうやって具体化し、見える形で視覚化することで本人の意識が少しずつ変わることもあります。そういう意味では本人の自己理解をいかに促すかが大切であり、時間はかかるかもしれません。

■グレーゾーンの人への支援はどのようにすればいいでしょうか。

精神科医の本田秀夫先生の川柳に“グレーとは 白ではなくて 薄い黒”というのがありますが、グレーゾーンですって相談を受けるケースは、僕から見ればグレーというよりもダイレクトど真ん中であることが非常に多いです。本人が困っていないときはユニバーサルデザインの考え方で、困っているときには合理的配慮の考え方をもちて対応されてはいかがでしょうか。

■専門性を高めるためにはどのようなトレーニングをしていけば良いですか。治療カウンセリングのスキルを向上していくにはどうすれば良いでしょうか。

僕の考えでは、自閉症スペクトラムが一番わかりやすいのは、幼児期の知的に遅れのある子どもたちです。そういう子どもたちへの直接支援の経験は、50代、60代の知的に高い人を支援するときにも生きて来ます。2歳の重度の自閉症の子も、70代の知的に高い人も、基本は「3つ組みの障害」であることに変わりはありません。先ほどお話した SPELL のアプローチを基本に、小学生くらいの特別支援学校とか、支援学級における自閉症の子の具体的プログラムを自分で作ってその子に課題をやってもらう、自分の作ったスケジュールにどうのってくるかをみる等々のトレーニングをお勧めします。それらを通じて得た実感は経験となって、今後の支援の際に役立つと思われます。

内山先生には、大変お忙しいなか当地までご足労くださり感謝申し上げます。長時間にわたるご講演と聴講者の皆様からの質問にも丁寧にお答えくださいました。本当にありがとうございました。

末筆になりましたが、内山先生のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

講演会終了後、アンケートを回収させていただきました。

以下、いただきましたご意見を一部抜粋して掲載させていただきます。

* アンケート回収 130 参考になった 112 どちらでもない 5
参考にならなかった 2 未記入 11

回答者所属			参加理由		
当事者	8	医療 11	聞きたい講師だから	47	案内が来たから 22
保護者	29	保健 18	会場が近いから	30	誘われたから 17
一般	10	保育 6	発達障害に関心があるから	94	その他 4
福祉	36	その他 3	毎回参加しているから	16	記入なし 4
教育	14	記入なし 6			

(複数回答)

(複数回答)

■ みなさまからいただいた感想から

- ・ 具体例が多くあり、わかりやすかった。成人期の様々な問題が実感できた。
- ・ 具体的に示して頂いてわかりやすかった。整理できた。質問に多く答えてもらえて勉強になった。
- ・ 成人期の特徴と対応が具体的に説明して頂けてよくわかった。
- ・ 大人の発達障害についての講演が少なかったので、参考になりました。
- ・ 今回初めて聴いたが、発達障害の方を理解しようとする上で、とても分かり易く良かったです。
- ・ 社会に出て、何に困っているかが、分かりやすかったです。具体例も分かりやすかったです。
- ・ 具体的なエピソードがあり、分かりやすかったです。「学校出てからの人生の方が長い」…確かにそうだと思います。学校のこと、目の前のことに注目しすぎてしまっていることが多いので、やはり先を見通したうえで、今の支援の中身を考えていくことは大切だと思いました。
- ・ 具体的な視点をいくつか知ることができました。人生は長く、特性を持ちながらも続いていくので、認めて尊重することが、慣れの中で忘れがちになってしまっていると思い、振り返りました。
- ・ 認知の特性～特性により現れる具体的な障害～当事者の気持ち～支援の方法、流れがわかりやすく、具体的な事例・支援方法もあり、とても良かった。
- ・ 成長過程に分類された特徴や支援などがわかりやすかった。当事者へのアンケート結果があったので、困りごと(生きづらさ)が具体的だった。
- ・ クリニックでの事例やアンケートから見えてくることをもとにした講演でわかりやすかった。支援の仕方を考えるいい機会になった。
- ・ 現場で実際に関わっている人が、医学的見地、教育的、福祉的な立場をとらえつつ話して下さり、とてもわかりやすかった。現場ではいろいろな事例がでてきますが、その物事だけをとらえるのではなく、障がい特性やかかわり方(本人にとってのわかりやすさの観点からも)含めてこそ、明日へのその人の人生を豊かに生きていくための支援になるのだとよくわかりました。

- ・ 本人のできることを考えていく支援という言葉が心に響きました。ありがとうございました。
- ・ 外で出せる特性は出していった方が本人もまわりもハッピーだと言われたのが心に残りました。
- ・ 実際の事例がたくさんあり、とてもわかりやすかったです。Happyの感じ方は人それぞれちがうというのはわかっているつもりでも、ついこうあるべきと思ってしまいがちです。頼りにならないと思われなければならないようにしなければと改めて思いました。
- ・ 大人の支援については制度、社会的理解ともになかなか進んでいかない分野なので、このテーマに関してまとまったお話が聞けたのがよかったです。田辺で内山先生のお話が聞けるというのはすごいことだったと思います。
- ・ 治療にあたっている医師の立場での講義内容が、発達障害という枠組みを知ることが出来、勉強になりました。
- ・ 発達障害の方の精神症状に対する薬物療法の注意点、とても勉強になりました。
- ・ 皆と友だちに…という課題はいらない！もっている特性は変わらない。幼児期も大人、初老…一緒。カモフラージュしなくていい社会へ…胸にささった。
- ・ 今まで友人のことや仕事のことなどで悩んできましたが、先生の無理に友人を作らねばとか思わなくてもよいなどと言われていたので安心しました。仕事ことはゆっくり本人に合った所を見つけていったら良いと思いました。
- ・ 成人の方の発達障害についての支援や理解について学ばせていただきました。特に成人期の支援者への不信感を持たれる方も多くいらっしゃるということで、支援者のあり方も今後の課題と感じました。
- ・ 自閉症スペクトラムについて、特性をもち合わせている子や人についての支援が非常に分かりやすかったです。どうしても大勢の生活や常識に合わせようとしてしまっていて、考えを改めたいと思えました。
- ・ 幅広い視点から発達障害への理解と支援について学ばせていただいた。発達障害は認知の障害であり生まれつきのもので、その中で私達ができることは必要な支援につなぎ、環境をどう作り出せるかだと思う。まだまだやらないといけない事は多いと感じた。
- ・ 一般就労の実際の対応のDVDをみせていただき、発達障害の特性が考え方の変化ではいろんな役割に変えることができるということがよく分かりました。特性をマイナスではなく、プラスに考えることが大事と実感できました。
- ・ 本人がもっているこだわりなどを、上手く長所へ変える方法を学ぶことができた。
- ・ 大人の発達障害がどのような困り感として表れ、おさえておかなければならないのはどういうことか、また支援の基本的なことをわかりやすく教えていただきよかったです。
- ・ 学校を卒業した後の社会生活で困ること、本人がしんどいと感じるところを少なくしていくかわり、生活の仕方、仕事の選び方が大切と学ぶことができました。
- ・ 女性や高齢者のASDの研修はほとんどないので、非常に有難かったです。とても濃い内容の研修でした。
- ・ 女性の方が社会的デマンドが強く、生きづらいということを日々感じていたので非常に共感できた。横浜市の自立生活アシスタント制度についてすごく関心をもつと同時に、財政的に厳しい市町で実施していくのは難しく、国に働きかけていく必要性を感じました。
- ・ 本人の適性(特性)をよく知り、本人に合った支援が必要で最善であることがよく分かりました。質疑応答時の先生の返答、わかりやすくよかったです。
- ・ 「発達障がい」について改めて整理して考えることができました。ありがとうございました。自分の仕事の関係で言うと、(今まで子どもにばかり目がいていたのですが)「発達障がいのある養育者支援」を考えていく必要があると気づかされました。ユニバーサルデザインと合理的配慮の考え方について、非常に参考になりました。それと、HAPPYの形は人それぞれでいいと言ってもらえたことは自分自身の安心にもつながりました。
- ・ 障害者の生活支援を仕事としているのですが、特性を安心して出せる環境作りが大切だということにとっても共感しま

した。できない事に焦点をあてがちだったのですが、強みに変えられる支援をしていきたいと思いました。

- ・ 具体例を分かりやすく話しながら伝えて下さり、イメージしやすかった。仕事上、子供の支援が多いが、成人期を見ずえて思春期のうちから自分の特性理解や対処法を一緒に考えていくことが大切だと思った。
- ・ 保育士をしています。職業柄、子どもの発達障害について勉強する機会はあるのですが、大人は初めてでしたので、大変勉強になりました。今関わっている支援の必要な子どものその後、その先をイメージするキッカケになったと思います。個人の能力に合った課題を提供し、達成感や充実感を感じられる保育内容を展開していきたいです。
- ・ 予測ではなく、実際のケースや経験にもとづいたお話だったので為になったと思います。私は支援者なので、発達障害の方への理解が更に深まったし、ああしよう、こうしようと思えることが多く、参考になりました。
- ・ 成人期の発達障害者の課題とその対応について自らの価値観を押しつけるのではなく、当事者の立場に立って考えることを再認識した。親子アセスメントについての介入方法が参考になった。
- ・ 自閉症スペクトラムのことをていねいに教えてくださり、また、実体験も含めて話して下さったことで聞きやすくてあつという間の講演でした。支援する側からの目線で話してくれたことで、児童発達支援センターで働く私にも、親と子を支援するときに先生の話を受けとめながら、否定批判せずに支援・療育をしようと心掛けたいと思いました。
- ・ SPELLアプローチなど、支援者の対応について教えていただきよかった。
- ・ 親の立場ですが、子供への対応のし方を再確認しました。
- ・ とても楽しく、内容も勉強になりました。それぞれの子どもの特性を思い浮かべながら、この子達がやがて大人になっていく上での支援が聞けてうれしかった。何より「生活する上で困らなければ、それは障害ではない」の言葉がうれしかった。
- ・ まだ子供は小学生ですが、将来の不安はいつもあります。成人期になるとどういう悩みが出るのか、本人の困り事・ニーズは何か等先々のことが分かり、これから“今やるべきこと”が見えてきて良かったです。また、母親のフォローもしておられるとのこと、いつも必要性を感じます。なかなかないですよね…。毎日いっぱいいっぱいです。学校の先生で知識のない方も多く、母親の頑張りも必要ですし…身内ですら…。今日は優しくはげましてくれる温かいお言葉をいただけ良かったです。ありがとうございました。
- ・ 息子が発達障害です。不安障害で苦しんでいました。病院で薬を頂いても職場のことで常に不安をかかえていました。でも最近職場を変えて、それが今のところおさまっています。私はそれが良かったのかどうかわかりませんでしたが、講義を聞いて、息子にとって良かったのだと実感しました。
- ・ まさに和歌山県が取り組むべき理解すべき課題だと思います。この講演の内容をぜひ生かした支援をお願いします。

■ 要望・改善してほしい点について

- ・ もう少しマイクの音量を上げて欲しい。聞きとりにくい部分があった。
- ・ 良い話でしたがマイクからの声が聞きづらかったので、声がおる様にしていただければありがたい。
- ・ マイクの音量が小さかった。専門用語が多くて、少しわかりにくかった。
- ・ 先生の声が聞きとりにくかったけれど、マイクのボリュームをあげるとハウリングしていたので、設備の問題ですね。
- ・ 声が聞き取りにくかったので、マイク音量やハウリングスポットの確認などは、あらかじめしておいたほうが良いと思いました。
- ・ 優しい話し方で内容も盛りだくさんだったのに、マイクを通した声が聞き取りづらく、もったいなかったです。
- ・ 申しわけありませんが、声が聞こえづらく…前半は分かりづらい点がありました。自分の勉強不足の所もありますが、具

体的なケースや内容のお話を聞きたかった。

- ・ 会場の関係もありますが、テーブルがほしいですね。メモしづらい。
- ・ スライドの見やすさ、音響機器の調整、資料のフォーマットなど、より見直していただけたら。
- ・ 具体例(策)をお聞きしたかったです。定義に終わってしまっていて残念でした。
- ・ 保護者として、しなければいけないことや、してはいけないことのお話を聞きたかった。特に子供の不安に対してどうすれば良いのかなど…。
- ・ もう少し具体的に今やれること、今後やれることについてアドバイスがほしかった。例えば、大学、大人になった時、まだまだ支援がいきとどいていない現実を聞かされても、私達(子ども)がどうしたらいいのか迷うと思います。
- ・ 学校卒業後の発達障がい事例などもっとたくさん聴きたいです。
- ・ 二次障害についてくわしく聞きたかった。
- ・ 大人の発達障がいによる社会での弊害、幼児期からのASDの子どもと親への支援、就労後のASDの子どもへの支援について。
- ・ 紀中での開催を検討してほしい。時間ももう少し早いと高速道路がこまない。
- ・ ボリューム的に1回では無理があるかと。
- ・ もう少し時間短くていい。1時間半～2時間位がよいか。お題にもよるが。
- ・ 内山先生、お元気にご活躍下さい！先生のお話を待っている沢山の方々(当事者も含めて)が居ます。

■ ポラリスへの要望や関心のあることについて

- ・ ADHDもやってほしい。ADHDも自閉症も重なる部分も多々ある。
- ・ 子どもの発達障害について。
- ・ 発達障害児の就学時(小学校、中学校、高校、大学)の進み方の例。
- ・ 発達障害や愛着障害。
- ・ 大人の発達障害のSST、発達障害の特性や困りごとへの対処や工夫を具体的に知りたい。
- ・ 発達障害の相談の現状などが分かる機会があれば、ありがたいです。
- ・ 事例検討などを通しての課題のとらえ方、具体的支援についての勉強会など。
- ・ 事例発表。
- ・ 生涯にわたる支援システム作りについて、家庭での具体的な支援の方法や実践などについて、引き続き大人の発達障害について、睡眠の問題、複雑性PTSDへの対処などについて、などのお話が聞きたいです。
- ・ ASDであろう(診断未)という女性の育児、就職、家事について、本人は自分の状況については受け入れ難く、でも、新生児は育てていかなければいけないというような方がいます。これからこの方のようなケースも増えてくるのでは？と思いますが、福祉関係者(診断されれば関わるけれど)の無力さを感じる人が多いです。
- ・ もう少し紀南地域への対応を増やしていただきたい。
- ・ 紀南でも学習会を定期的で開催して下さい。
- ・ 巡回相談を申し込みたいと思いますが、新宮、串本方面への回数を増やして欲しいです。
- ・ 今回、社会への関わり方がためになりました。その他、実例を含めて、情報発信してほしい。
- ・ 就労支援の現場においても“大人の発達障害”についての理解は必須と考えられます。また、このような内容(具体的に)のお話をもっと聴きたいです。

- ・ 又、大人の発達障害についておはなし聞きたいです。
- ・ 発達障害に特化せず、同じような困りごとを持つ人の相談にのったり、関係機関(他障害の人)とも繋がって連携したりしてほしい。
- ・ サポートはどこで受けられるか知りたいです。
- ・ 自立生活支援アシスタント制度のようなものが和歌山にもあるのか。
- ・ 医療者の方へこの研修をして下さい。ADHD・アスペルガー症候群の特性を持っていると思われる夫(昔は受診体制がない為、診断名がついていない)が、入退院を繰り返したら、医療者の無理解の為に、病院側から家族が非難されました。
- ・ 職場に発達障害と診断された若手がいるので、その人を今後どう支援していけばよいかについて、関心があります。
- ・ 年4回の勉強会(重里 Dr)は継続して下さい。
- ・ 講演の内容(課題)について和歌山県でどのような取り組みをされているのでしょうか。

■ 次回以降の講演会への要望

- ・ 就労支援について。
- ・ 就労者の実例が知れたらいいです。
- ・ ASDの就労支援、高等教育におけるASD等の修学支援、成人女性ASDの支援。
- ・ ADHDについて詳しく聞きたいです。
- ・ S50～60年代生まれの世代はASDの概念もあまり世間に広まっておらず、今の子どもたちや大学生などは充分ではないが必要な支援を受けることができているのではと感じます。自分と同世代の発達障害の方が今より困ることが少なく、必要なことを説明していただける講演会をお願いします。
- ・ この際(8050)問題の事を大きく取り上げてほしいです。
- ・ 二次障害や引きこもりへの支援、不登校児の支援でうまくいった例など。
- ・ 二次障害をおこさないためにも、幼児期の支援が大切だと思います。幼児期の支援について、福岡寿さんの実践の話を知りたいです。
- ・ 発達障害幼児期について、TEACCHなどの講習会の開催、(ADHD等への)薬物療法について。
- ・ 小中学校での発達障害支援、周りの子に理解してもらう方法。
- ・ 学習支援について(特にLDへの支援)、薬物療法、CBT、ABAなど治療や療育について、幼児期～児童期に特に重要と考えられる支援と基本的な考え方について、非行・犯罪についてなど。また、難しいかもしれませんが、ニセ医療やカルト的な民間療法などの整備もお願いできれば。
- ・ 読むことはできても書くことができない等の学習障害の対応、支援等…。障害によってちがうとは思いますが、インクルーシブの保育・学校がよいのか、専門性のよさ…。
- ・ ペアレントトレーニング、睡眠障害、ききたい。学校の先生に対しての発達障害勉強会をたくさんしてほしい。分かってくれないつらさが続く。子どもの担任が無理解だと一年で子どもの状態がすごくわるくなる。
- ・ 学生時代の担任の先生、行政サービスの受け方の対応の例を知りたい。
- ・ 自己肯定感を持っていない人や成人期に診断を受けた人への相談対応などのヒントをもう少し詳しく得られる話があれば…。

- ・ 実際、支援など行ってうまくいっているところ(機関)のお話を聞かせていただきたく思います。
- ・ 和歌山の企業さんの事例、採用例など、人事の人を招いて生の話(とり組みなど)を聞きたい。
- ・ 発達障害のある人達が地域で自分らしく生活できるシステム作りについて、どういった事が必要か聞きたいです。
- ・ 冠地情先生、本田秀夫先生、山田由美子先生(福祉屋あおい)、日野公三先生、川上康則先生、米澤好史先生、立石美津子先生、土井高德先生、長谷川正人先生、講演会をしてほしい。
- ・ 「問題行動とそれへの対応」をお聞きしたいです。
- ・ 発達障害とトラウマについて。
- ・ 重度の知的障害と自閉的傾向を持つ人の余暇の過ごし方。
- ・ 介入しづらい家庭への支援。
- ・ 精神障害者への支援。
- ・ 認知症について。
- ・ 田辺で開催だったので、南から参加しやすくてありがたかったです。
- ・ 今回は田辺市内での開催でしたが、できれば紀南地域(新宮市内)でも開催してほしい。
- ・ すてきなお話ありがとうございました。2020年のスタートがすっきりした気持ちで前向きに支援・療育できる良い機会になりました。
- ・ いつも素晴らしい講師でとても講演会を楽しみにしています。
- ・ いつも興味深く、又必要性を感じている内容の研修会を開催していただいてありがたいです。

この他にもいただきました沢山の貴重なご意見・ご感想を
これからの活動に活かしていきたいと思えます。
どうもありがとうございました。